

証券コード：3422



株主通信

第58期 第2四半期決算のご報告
2015年4月1日から2015年9月30日まで



株式会社 **丸順**

株主の皆様へ



代表取締役社長

今川喜章

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、このたび当社第58期第2四半期（2015年4月1日から2015年9月30日まで）を終了いたしましたので、営業概況及び第2四半期決算のご報告を申しあげます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2015年 11月

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界情勢は、米国では、家計部門を牽引役として景気回復が続いており、欧州では、個人消費と輸出主導で回復基調を維持しております。アジアでは成長ペースが鈍化し、特にタイでは外需低迷が内需にも波及し厳しい状況となっております。日本では、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、全体としては、先進国を中心に緩やかな成長基調を維持した状況で推移いたしました。

当社グループが属する自動車業界においては、米国では消費者心理が高いことから好調な販売を維持しておりますが、中国では景気減速の影響により、自動車市場が低迷しております。また、日本国内ではエコカー減税の基準厳格化による販売不振からは回復に向かってはいるものの、衝突安全性能や地球環境問題などの社会的ニーズは高まり続けており、業界として対処すべき課題は年々増え続けております。

このような状況のもと、当社グループは厳しい収益状況からの早期脱却と、持続的な企業成長に向けた「丸順構造改革プラン」を推進しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は35,173百万円（前年同四半期比11.4%増）、営業利益は589百万円（前年同四半期は926百万円の営業損失）、経常利益は169百万円（前年同四半期は1,143百万円の経常損失）の増収増益となりましたが、減損損失及び事業構造改善費用等の計上により、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,591百万円（前年同四半期は1,577百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、早期に経営状況の健全化を目指すという観点から、誠に遺憾ながら中間配当は見送らせていただくことになりました。

2. セグメント別の業績

■ 丸 順（株式会社丸順）

丸順においては、エコカー減税の基準厳格化による減産の影響などを受け、売上高は前年同四半期を下回りましたが、「丸順構造改革プラン」の着実な推進による製造原価の低減などにより、利益は前年同四半期を上回る状況で推移いたしました。

以上の結果、売上高は6,530百万円（前年同四半期比11.7%減）、経常利益は396百万円（前年同四半期は197百万円の経常損失）となりました。

■ タ イ（タイ・マルジュン社）

タイにおいては、乗用車をはじめとする国内新車需要の低迷や為替影響等により、売上高は前年同四半期とほぼ同水準であったものの、製造原価低減に対する取り組み推進により損失は減少いたしました。

以上の結果、売上高は4,382百万円（前年同四半期比4.0%増）、経常損失は640百万円（前年同四半期は736百万円の経常損失）となりました。

■ 広 州（広州丸順汽车配件有限公司）

広州においては、中国自動車市場の失速の影響を受けるも、金型事業を中心に販売が拡大したことに加え、為替影響もあり売上高は増加しましたが、設備費及び労務費などの固定費が増加したことで利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は10,479百万円（前年同四半期比25.4%増）、経常利益は16百万円（前年同四半期比95.9%減）となりました。

■ 武 漢（武漢丸順汽车配件有限公司）

武漢においては、広州同様自動車市場の失速の影響を受け、売上高が大幅に減少したほか、設備費及び労務費などの固定費負担が相対的に増加したことで利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は2,473百万円（前年同四半期比22.9%減）、経常損失は75百万円（前年同四半期は237百万円の経常利益）となりました。

■ インディアナ（インディアナ・マルジュン社）

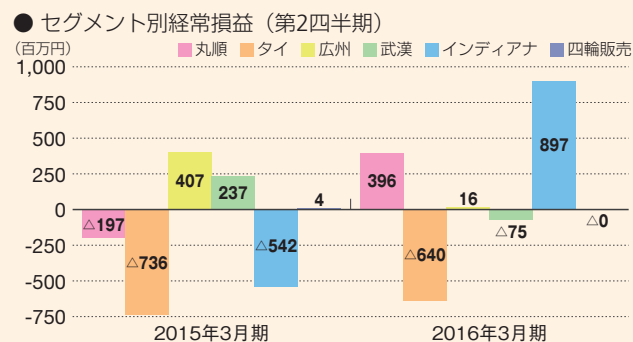
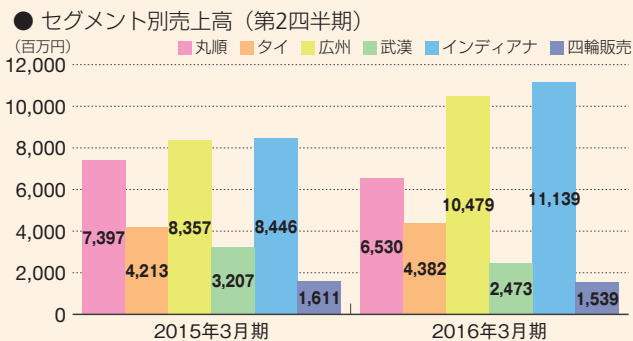
インディアナにおいては、主要顧客の増産及び為替等の影響を受け、売上高が増加したほか、品質安定化に伴う検査費用、外注費及び経費などの削減により、利益は前年同四半期を上回る状況で推移いたしました。

以上の結果、売上高は11,139百万円（前年同四半期比31.9%増）、経常利益は897百万円（前年同四半期は542百万円の経常損失）となりました。

■ 四輪販売（株式会社ホンダ四輪販売丸順）

四輪販売においては、中古車販売やサービス部門では収益が底堅く推移するも、エコカー減税の基準厳格化による新車販売の低迷により売上高、利益ともに前年同四半期を下回る状況で推移いたしました。

以上の結果、売上高は1,539百万円（前年同四半期比4.4%減）、経常損失は0百万円（前年同四半期は4百万円の経常利益）となりました。



精密部品の新規受注

当社は開発段階からお客様と共同で推進の難易度が高いトランスミッション部品について、板金加工にて一体成形できる技術を習得し、この度、精密部品の新規受注を獲得しました。

車載電池板金部品の新規受注

当社は環境、燃費に貢献するハイブリット車のシェア増加に伴い自動車メーカーのみならず、総合電機メーカーへも積極的な受注活動を展開した結果、この度、車載電池板金部品の新規受注を獲得しました。

今後も様々な観点から技術提案を行い、受注拡大に努めてまいります。

トピックス

丸順構造改革プランについて

当社グループは本事業年度（第58期）より、事業構造の变革と収益力及び財務体質強化のため「丸順構造改革プラン」を推進しております。

丸順構造改革プランの進捗状況

1. 経営資源の集中による事業ポートフォリオ変革
 - (1)採算が悪化している関東客先向けプレス部品事業については、一部の部品を除き、今期中に撤退する予定です。
 - (2)業績が低迷している北米事業については撤退を決定し、平成28年9月末を目途にした閉鎖または売却を進めております。
 - (3)四輪販売事業は関係先等との協議の結果、連結子会社の非対象事業とする方向性を変更し、引き続き当社の連結対象事業として継続してまいります。
2. 資産売却、要員削減及び工場集約によるボトム経営体質の構築
 - (1)平成27年7月に上石津工場に本社機能を移転いたしました。
 - (2)希望退職者募集については200人の募集に対して140人となり募集人数に達しませんでした。自己都合退職も含めた総労務費の削減額等を加味すると概ね当初計画の水準を確保しております。
 - (3)国内に分散する生産拠点は上石津工場への集約を順次進めております。

広州丸順汽車配件有限公司 Jeep部品受注

広州丸順汽車配件有限公司は、フィアット・クライスラーグループの主要ブランド「Jeep」の3車種の部品の受注を獲得しました。「Jeep」は中国市場でも人気があり、四輪駆動車の代名詞とも言える有名なブランドであります。今後も丸順グループとして積極的な受注拡大を図ってまいります。

受注3車種

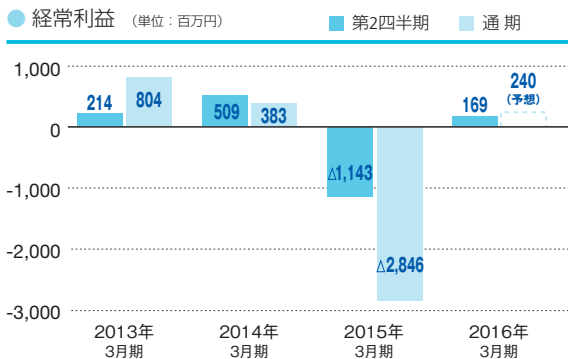
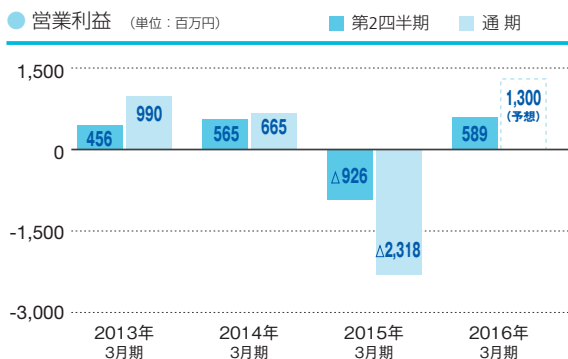
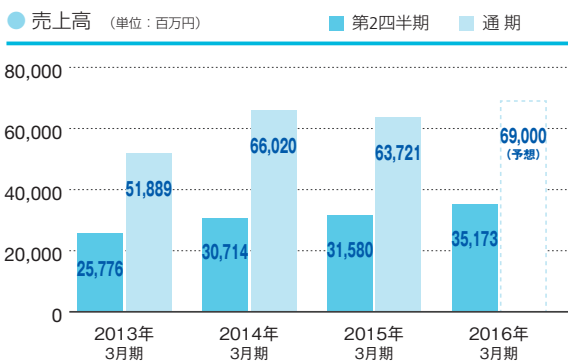


納入代表部品

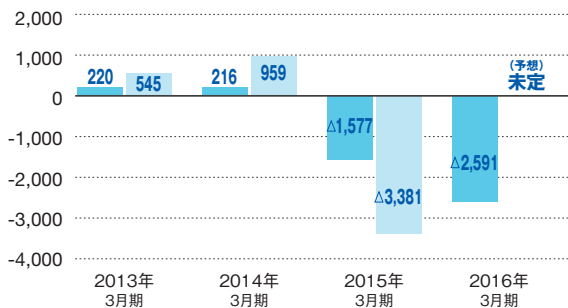


ステアリング
ハンガービーム

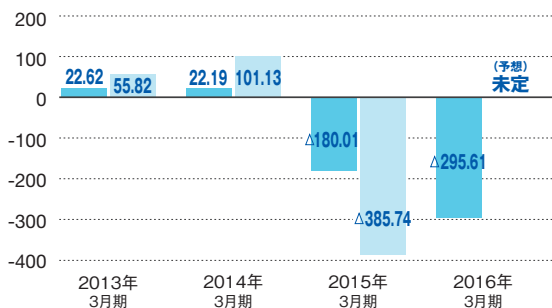
連結決算ハイライト



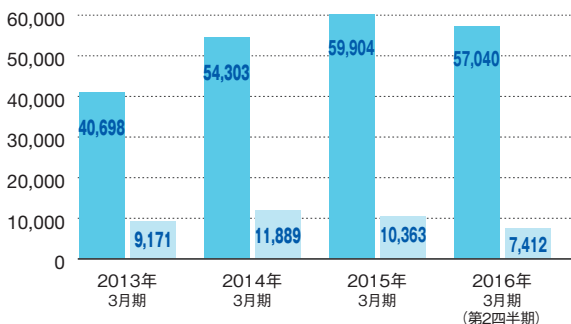
● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円) ■ 第2四半期 □ 通期



● 1株当たり親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:円) ■ 第2四半期 □ 通期



● 総資産・純資産 (単位:百万円) ■ 総資産 □ 純資産



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 2015年9月30日現在	前期末 2015年3月31日現在
資産の部		
流動資産	20,893	18,582
固定資産	36,147	41,321
有形固定資産	34,723	38,855
無形固定資産	217	209
投資その他の資産	1,206	2,256
資 産 合 計	57,040	59,904
負債の部		
流動負債	36,996	33,588
固定負債	12,631	15,951
負 債 合 計	49,628	49,540
純資産の部		
株 主 資 本	432	3,023
資 本 金	1,037	1,037
資 本 剰 余 金	935	935
利 益 剰 余 金	△914	1,677
自 己 株 式	△626	△626
その他の包括利益累計額	3,030	3,228
その他有価証券評価差額金	92	554
為替換算調整勘定	3,049	2,844
退職給付に係る調整累計額	△112	△171
非支配株主持分	3,949	4,111
純 資 産 合 計	7,412	10,363
負 債 純 資 産 合 計	57,040	59,904

四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2015年4月1日から 2015年9月30日まで	2014年4月1日から 2014年9月30日まで
売 上 高	35,173	31,580
売 上 原 価	32,098	30,336
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,485	2,170
営 業 利 益 ・ 損 失 (△)	589	△926
営 業 外 収 益	69	132
営 業 外 費 用	489	349
経 常 利 益 ・ 損 失 (△)	169	△1,143
特 別 利 益	770	91
特 別 損 失	3,483	41
税金等調整前四半期純利益・損失(△)	△2,543	△1,094
法 人 税 等	139	557
四 半 期 純 利 益 ・ 損 失 (△)	△2,682	△1,651
非支配株主に帰属する四半期純利益・損失(△)	△90	△73
親会社株主に帰属する四半期純利益・損失(△)	△2,591	△1,577

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2015年4月1日から 2015年9月30日まで	2014年4月1日から 2014年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,898	2,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,157	△6,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	252	3,447
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	△70
現金及び現金同等物の増減額	1,036	△733
現金及び現金同等物の期首残高	3,579	2,486
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,616	1,753

会社概要 (2015年9月30日現在)

商号	株式会社 丸順 (英文社名：MARUJUN CO., LTD.)
本社所在地	〒503-1601 岐阜県大垣市上石津町乙坂130番地1
創業	昭和27年7月 (創業者：今川 順夫)
設立	昭和35年1月
資本金	10億3,755万円
事業内容	自動車用車体プレス部品の製造 自動車用精密プレス部品の製造 各種金型の設計・製作 治具・検査具の設計・製作 自動車の販売・サービス
従業員数	321名 (連結3,352名)

役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役社長	今川 喜章
常務取締役	齊藤 浩
常務取締役	青山 秀美
取締役	高塚 雅彦
取締役	猪熊 篤俊
取締役	上田 勝弘
常勤監査役	馬淵 仁
監査役	片岡 信恒
監査役	奥田 崇雄
執行役員	松井 恒夫
執行役員	森見 幸敏
執行役員	林 和英
執行役員	山崎 英次

- (注) 1.取締役 上田勝弘氏は、社外取締役であります。
2.常勤監査役 馬淵仁氏、監査役 片岡信恒氏は、社外監査役であります。
3.常務取締役 武田利昭氏は、9月30日をもって辞任いたしました。

株式の状況 (2015年9月30日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	9,771,000株
株主数	892名

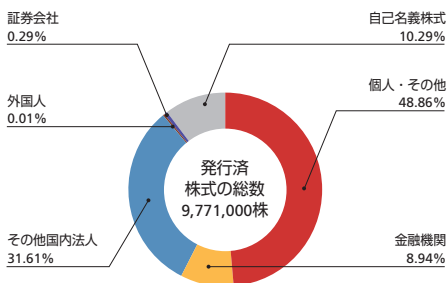
大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
今川喜章	1,020,570	11.64
本田技研工業株式会社	988,950	11.28
今川順夫	959,170	10.94
太平洋工業株式会社	463,950	5.29
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	4.23
今村金属株式会社	330,000	3.76
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.71
株式会社大垣共立銀行	300,000	3.42
有限会社イマガワ	300,000	3.42
丸順取引先持株会	274,900	3.14

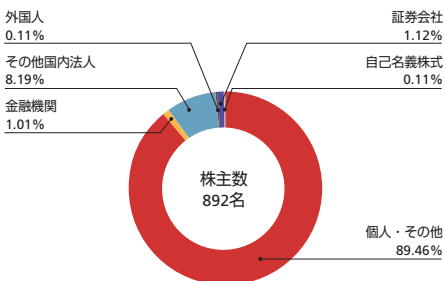
(注) 当社は、自己株式1,004,922株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況

● 株式数構成比



● 株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

